

小学校における情報活用能力を育む授業実践

令和3年度入学

熊本大学大学院 教育学研究科

教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース

木山 秀太

実践報告書要旨

平成29年告示の学習指導要領において初めて「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要なICT環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしており、情報教育や教科等の指導におけるICT活用など、教育の情報化に関わる内容の一層の充実が図られた。

情報活用能力を育成することは、将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくために重要である。また、子どもたちの情報活用能力を育むためには教科等においてICTを適切に活用した学習活動の充実を図ることが不可欠である。

こうした背景から本研究では、子どもたちの情報活用能力を育むために、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」の学習過程を踏まえた単元構成をもとに、ICTの利便性である編集や修正が簡単にできる要素と、シンキングツールの自分の考えを可視化できる要素を組み合わせた授業実践を行った。シンキングツールを活用した授業実践を通して、情報活用能力を育むための学習活動に必要な手立てを明らかにすることを目的とした。本研究では、連携協力校の第6学年を対象に2つの授業実践Ⅰ・Ⅱを行った。授業実践Ⅰでは国語「インターネットの投稿を比べよう」を計8時間、授業実践Ⅱでは国語「世界に目を向けて意見文を書こう」を計6時間行った。

授業実践から子どもたちの情報活用能力を育むために、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」を踏まえた授業実践において、シンキングツールの活用は有効な手立てであることが分かった。特に、「情報の収集」「整理・分析」の学習過程では、シンキングツールの活用による思考の可視化を通して他者と比較して考えを深めたり、広げたりしていくことに効果的である。また、学習する単元のねらいや目標に向けたシンキングツールの活用が求められる。子どもたちが主体的に考えを深めたり広げたりする理想の姿は、課題を解決するために、必要に応じて適切なシンキングツールを選択して学習を進めている姿であると考え、子どもたちが自らシンキングツールを選択するためには、シンキングツールの良さを経験し、それぞれの活用方法を習得していく必要がある。そしてそれらは普段の学習の中でシンキングツールを活用する場面を設定し、経験を積み重ねることによってより身近なものになっていく。

【キーワード】 情報活用能力、シンキングツールの活用、ICTの活用、思考の可視化